

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°38 シャソルネイ・デュ・スッド

生産地方：ラングドック（ミネルヴォワ）

新着ワイン 1 種類♪

VdF キュヴェ G 2017 (赤)

2017年は、2015年に匹敵する当たり年！グルナッシュは、他の品種よりも花ぶるいが起こりやすいのだが、2017年は問題なく開花が終わり、収量も45 hL/haと豊作だった！発酵前にグルナッシュで Pied de cuve（※小さなタンクでブドウを発酵させつくった酒母）をつくり、それを本収穫のブドウに混ぜ発酵を促した！ワインは酒質が強く凝縮しており、前年よりも長熟なタイプに仕上がっており、あと数年寝かせることで、さらに真価を発揮する予感がある！

ミレジム情報 当主「ロドルフ・ジャネジニ」のコメント

2017年は、2015年のように収量と品質に恵まれた当たり年！2015年との違いは、ブドウの成熟が早かったこと。特に、シラーはシャソルネイ・デュ・スッド始まって以来初めて8月に収穫を開始している！

気候的には、冬は比較的暖かくブドウの発芽も例年より早かった。だが4月終わりに霜のリスクをもたらす寒気が舞い込み、彼の畑から距離にしてたった300 mしか離れていない隣人のブドウ畑は、低地だったため霜の被害に遭いほぼ全滅…。一方、彼の畑は少し高い位置にあったおかげほぼ100%霜の難を逃れることができたそうだ。道路を挟んでまるで境界線を引いたようにくっきりと明暗が分かれたのは本当に奇跡としか言いようがない！

それ以降は、最大の当たり年である2015年と同様に、雹、花ぶるい、病気の被害は一切なく、夏は適度に暑く雨も適度に降り、収穫したブドウは腐敗がなくきれいで完璧な状態だった。醸造も発酵がとてもスムーズで、トラブルや問題は何もなかった！

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① キュヴェ G の畑

これは5月の訪問で撮ったGの畑の写真。(写真①)畑に青々と雑草が生い茂っている！これでも3月に1度土起こし、そして4月に雑草刈りを行っているのだそうだ。例年だとこの時期は、乾燥により土起こしをした土壌からこのように雑草が生い茂ることはないのだが、今年は作業が間に合わないくらい雑草に勢いがある。ロドルフが言うには、今年の春は雨が多く、5月までの降雨量がすでに500 mmと年間降雨量近くまでに達しているのだそうだ！当然雨が多いとブドウの病気が心配になってくる…。実際に畑の中をゆっくり歩いてまわったが、確かにブドウの葉の所々に黄色いミルデューのシミが確認された。ちなみに、ロドルフのところは、オイディウム被害は良くあるが、ミルデューが見つかることは珍

しいらしい。昨年とは打って変わり、それだけ今年は今のところ雨が多く湿気の高い天気が続いている。

これはカーヴ内から外の風景を撮った写真。(写真②) 数本の木が立つ場所には公道が通っていて、そこを境に手前がフォンシプレのグルナッシュ白の畑、奥の小屋のまわりの茶色くなっている場所は全て隣人の畑だ。オペラシオン的には、フォンシプレの畑までが AC コルビエールで、公道を境に奥はヴァン・ド・ペイ・ドックに区分けされている。写真で見ても分かるように、2つの畑の違いを挙げるとしたら、フォンシプレの畑は穏やかな斜面にあり、若干高い位置にあるということくらいで、隣人とは畑の傾斜も標高もそんなに大差はないのだが、2017年の遅霜の被害は、フォンシプレの AC コルビエールがほぼ皆無だったのに対し、隣人のヴァン・ド・ペイの畑は100%壊滅してしまったというから、本当に驚きだ！（ロドルフが特別に霜対策を行っていた訳ではない）



写真② 木が生えている所までが AC コルビエール

当初、ラングドックの田舎道挟んで「AOC」と「ヴァン・ド・ペイ」の区分けがあまりピンとこなかったが、この明暗分かれた結果から、いかに区分けが適正だったかを痛感させられた。同時に紆余曲折、月日を重ねてたどり着いた、この様な畑の区分けこそが、フランスワインの礎であり、特色であり、醍醐味となっている！

(2018.5.2.&6.20 ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ